

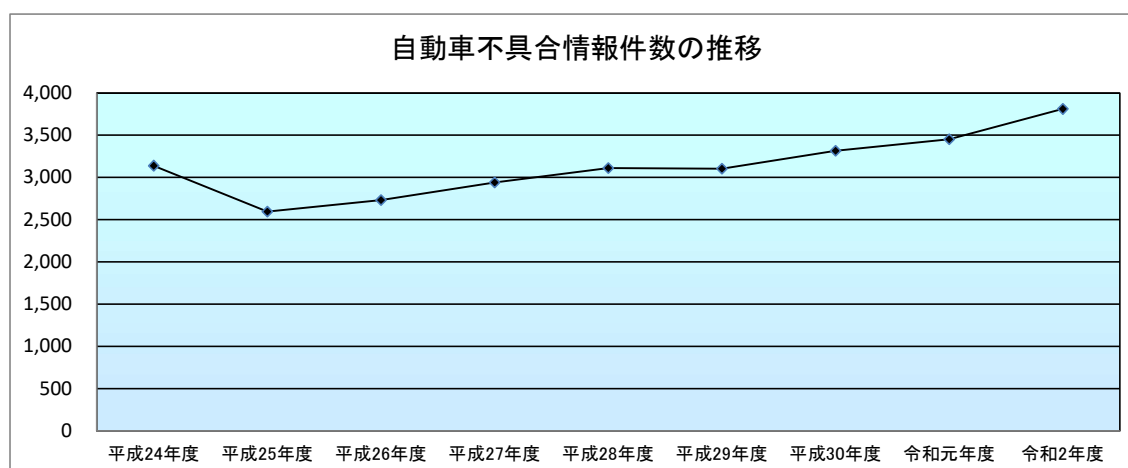
令和2年度の自動車不具合情報の統計結果について

国土交通省の自動車不具合情報ホットライン (<https://www.mlit.go.jp/jidosha/carinf/rci/hotline.html>) に自動車ユーザー等から寄せられた市場での自動車不具合情報について、令和2年度の統計結果をとりまとめたので公表いたします。

なお、本自動車不具合情報は、設計又は製造に起因するものに限られておらず、整備不良やユーザーの誤使用等に起因する可能性があるものも含まれています。また、本統計はあくまでもユーザーの申告による不具合情報を元にしており、国土交通省として不具合情報の内容について事実関係を保証しているものではありません。

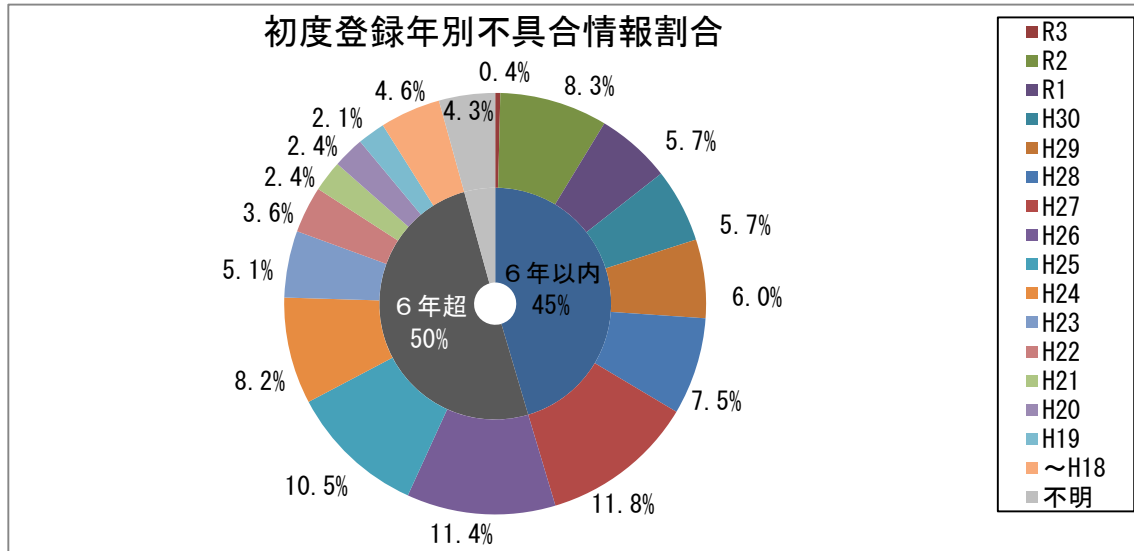
1. 令和2年度に国土交通省の自動車不具合情報ホットラインに寄せられた情報の件数は6,291件であり、そのうち有効な自動車不具合情報件数は3,811件であった。

件数の推移をみると平成25年以降は緩やかな増加傾向にある。



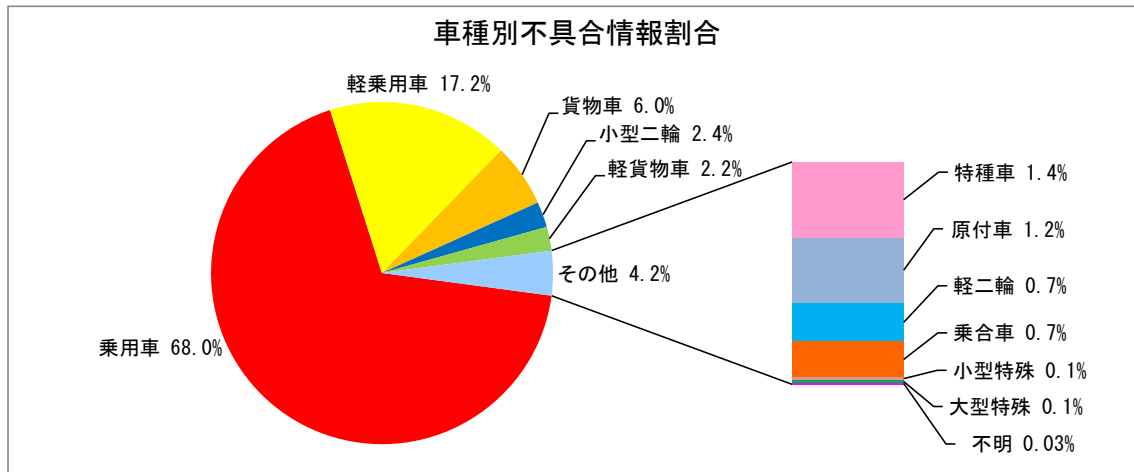
年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
件数	3,141	2,597	2,733	2,943	3,110	3,105	3,317	3,452	3,811

2. 初度登録年別（軽自動車にあっては初度検査年。以下同じ。）の不具合情報件数は、初度登録年が平成27年の自動車が451件(11.8%)と最も多く、次いで平成26年の自動車が435件(11.4%)となっている。初度登録後6年以内の自動車に関わる不具合情報件数と6年超経過した自動車（不明を除く。）に関わる不具合情報件数を比較すると、大きな差はなく、6年超の件数が若干多くなっている。



初度登録年別	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19	~H18	不明	合計
件数	15	315	219	216	230	284	451	435	399	312	195	136	91	92	80	177	164	3,811

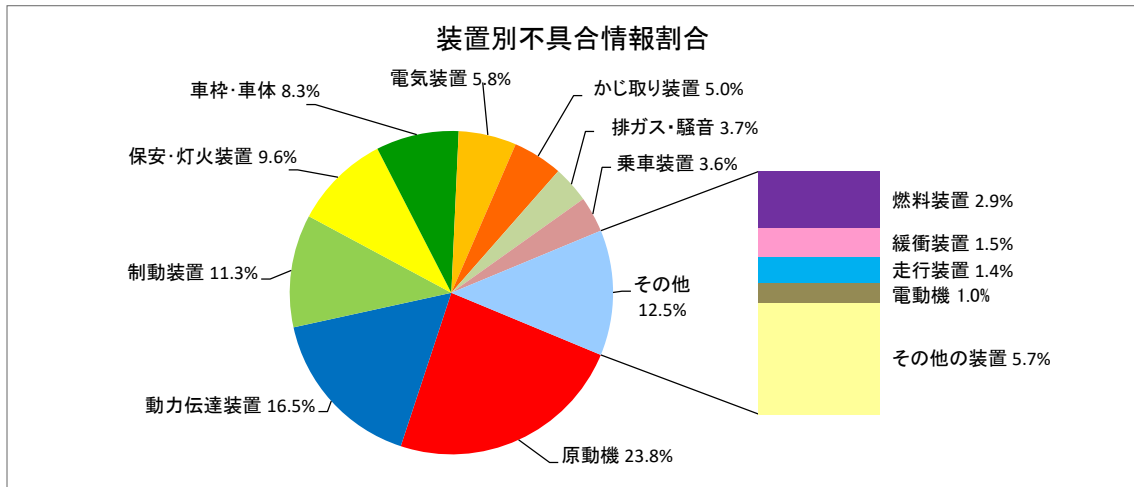
3. 車種（用途）別の不具合情報件数は、「乗用車」が2,591件(68.0%)と最も多く、次いで「軽乗用車」が654件(17.2%)、貨物車が228件(6.0%)の順となっている。



車種別	乗用車	軽乗用車	貨物車	小型二輪	軽貨物車	特種車	原付車	軽二輪	乗合車	小型特殊	大型特殊	不明	合計
件数	2,591	654	228	92	85	55	47	28	26	2	2	1	3,811

4. 装置別の不具合情報件数は、「原動機」が907件で全体の23.8%と最も多く、次いで「動力伝達装置」が628件(16.5%)、「制動装置」が430件(11.3%)の順となっている。

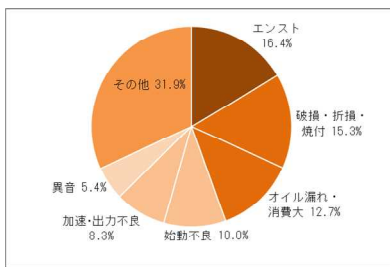
これら不具合情報件数の多い装置分類の上位3種について不具合事象をみると、件数上位に、原動機では「エンスト」「折損・破損・焼付」、動力伝達装置では「変速不良」「走行不能」、制動装置では「液・空気漏れ」「制動力不足」といった走行安全性に関わる重大な事象が占めており、件数の中位には「オイル消費大」「変速ショック」や「異音」といった快適性・商品性に関わる事象が挙げられている傾向がみられる。



装置別	原動機	動力伝達装置	制動装置	保安・灯火装置	車枠・車体	電気装置	かじ取り装置	排ガス・騒音	乗車装置	燃料装置	緩衝装置	走行装置	電動機	その他の装置	合計
件数	907	628	430	366	316	220	190	140	136	111	58	52	38	219	3,811

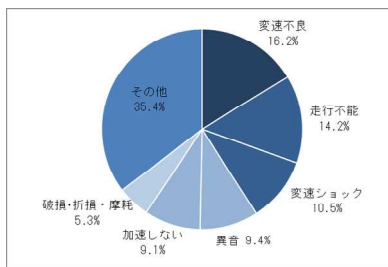
不具合の多い装置分類 上位3種

1. 原動機



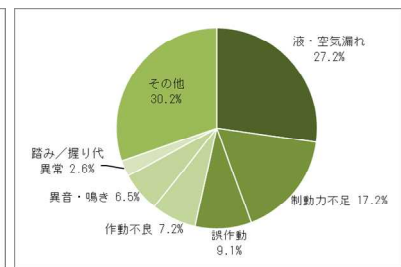
順位	不具合事象	件数
1	エンスト	149
2	破損・折損・焼付	139
3	オイル漏れ・消費大	115
4	始動不良	91
5	加速・出力不良	75
6	異音	49
	その他	289
	合計	907

2. 動力伝達装置



順位	不具合事象	件数
1	変速不良	102
2	走行不能	89
3	変速ショック	66
4	異音	59
5	加速しない	57
6	破損・折損・摩耗	33
	その他	222
	合計	628

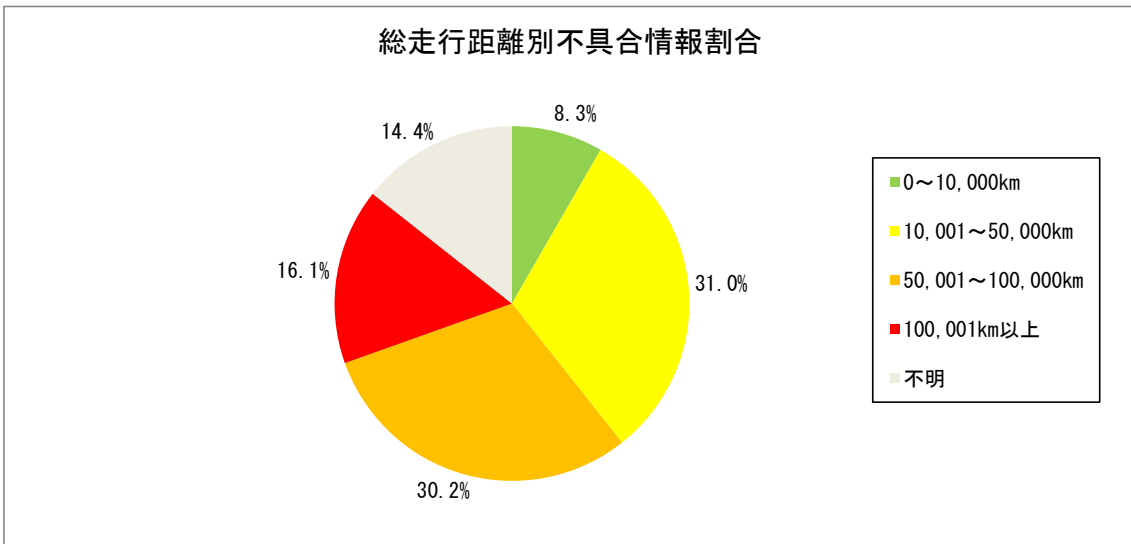
3. 制動装置



順位	不具合事象	件数
1	液・空気漏れ	117
2	制動力不足	74
3	誤作動	39
4	作動不良	31
5	異音・鳴き	28
6	踏み/握り代異常	11
	その他	130
	合計	430

5. 総走行距離別の不具合情報件数は、「1万km超5万km以下」が1,182件(31.0%)と最も多く、次いで「5万km超10万km以下」が1,152件(30.2%)、「10万km超」が612件(16.1%)、「1万km以下」が317件(8.3%)の順となっている。

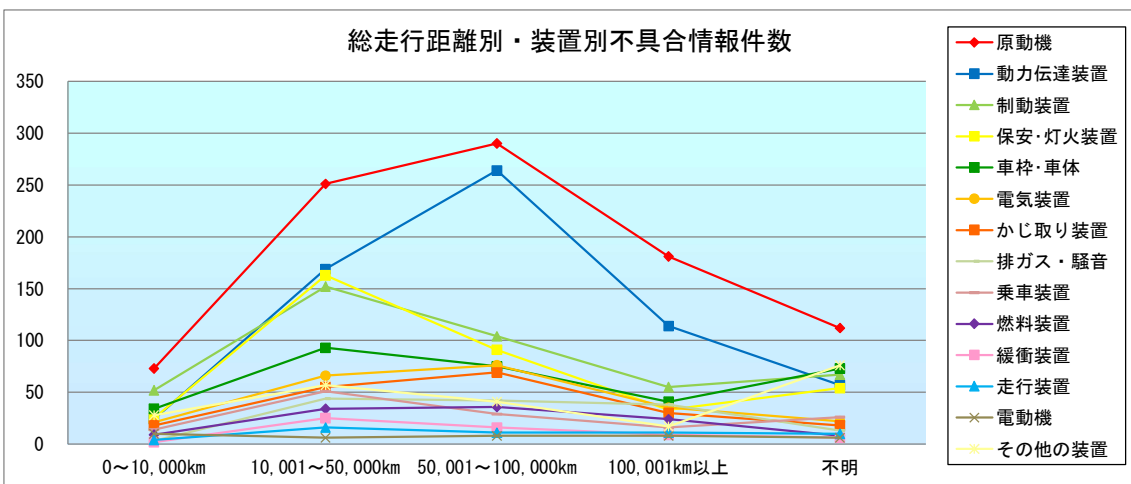
5万km以下と5万km超の不具合情報件数とを比較すると、後者の不具合情報が多く寄せられている。



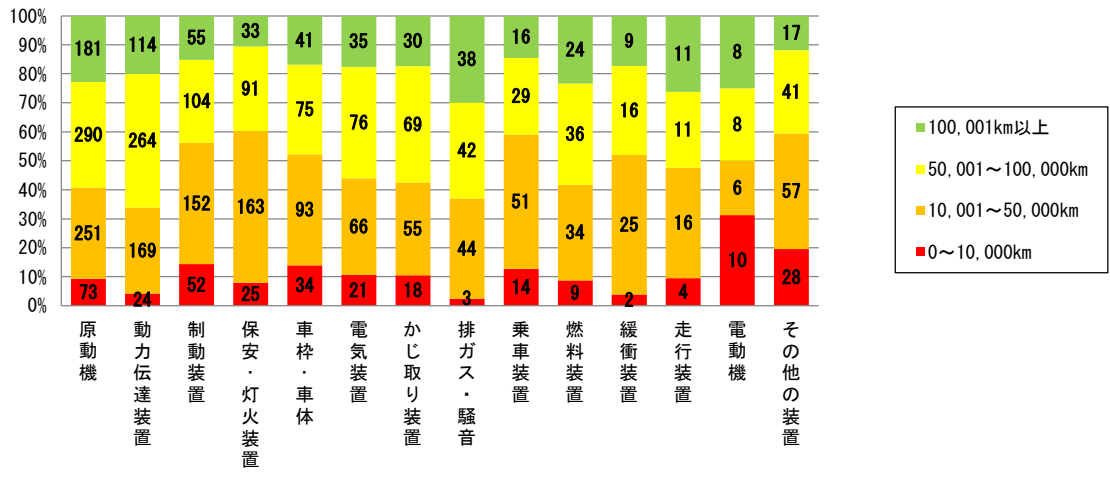
総走行距離別	0~10,000km	10,001~50,000km	50,001~100,000km	100,001km以上	不明	合計
件数	317	1,182	1,152	612	548	3,811

6. 総走行距離別・装置別の不具合情報件数をみると、装置別不具合件数上位3種について、「原動機」および「動力伝達装置」は5万km超10万km以下の不具合情報件数が最も多く、「制動装置」は1万km超5万km以下の不具合情報件数が最も多くなっている。

また、不具合情報割合をみると、「保安・灯火装置」「乗車装置」は5万km以下の比較的総走行距離が少ない早期に不具合情報が挙げられる傾向がある。



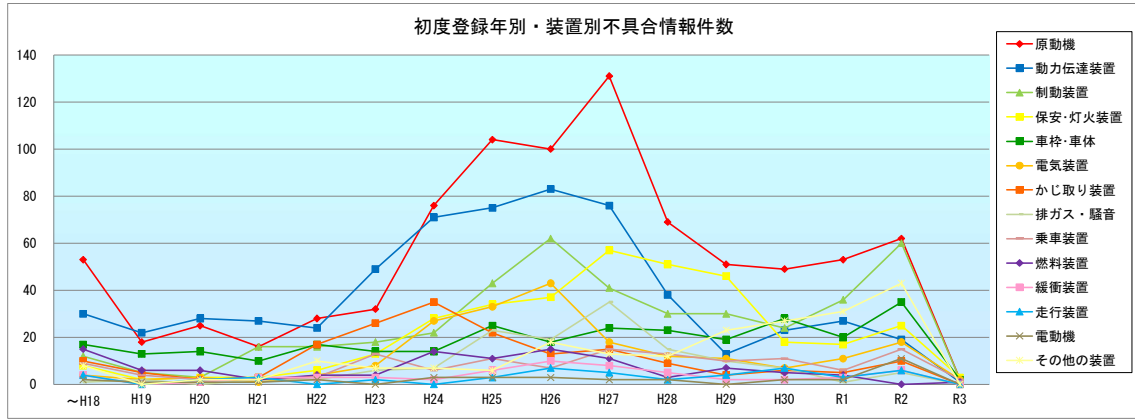
走行距離別・装置別不具合割合



(件)

総走行距離別 装置別	0~10,000km	10,001~50,000km	50,001~100,000km	100,001km以上	不明	合計
原動機	73	251	290	181	112	907
動力伝達装置	24	169	264	114	57	628
制動装置	52	152	104	55	67	430
保安・灯火装置	25	163	91	33	54	366
車枠・車体	34	93	75	41	73	316
電気装置	21	66	76	35	22	220
かじ取り装置	18	55	69	30	18	190
排ガス・騒音	3	44	42	38	13	140
乗車装置	14	51	29	16	26	136
燃料装置	9	34	36	24	8	111
緩衝装置	2	25	16	9	6	58
走行装置	4	16	11	11	10	52
電動機	10	6	8	8	6	38
その他の装置	28	57	41	17	76	219
合計	317	1,182	1,152	612	548	3,811

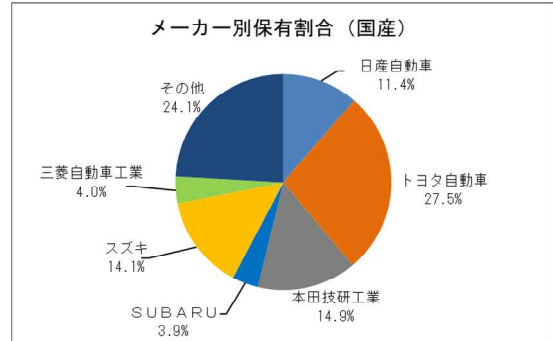
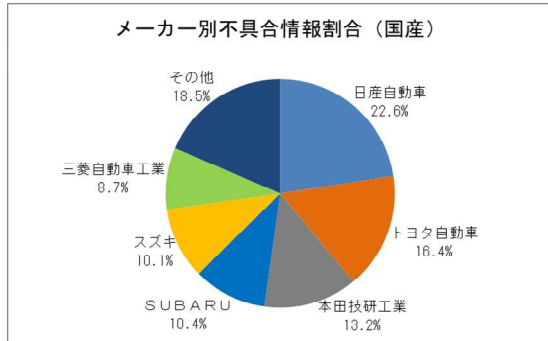
7. 初度登録年別・装置別の不具合情報件数をみると、全体として初度登録H25、26、27年の件数が多くなっているが、「車枠・車体」は初度登録R2年にピークがあり、他の装置種別と比べて早期に不具合情報が挙がってくる傾向がみられる。



(件)

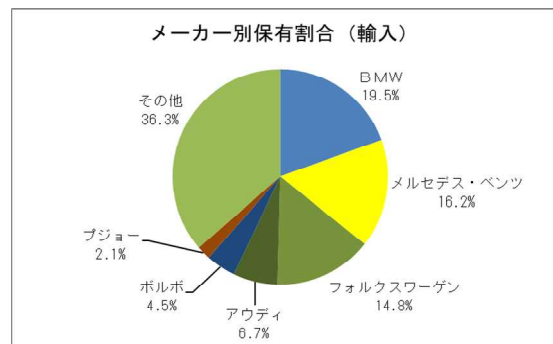
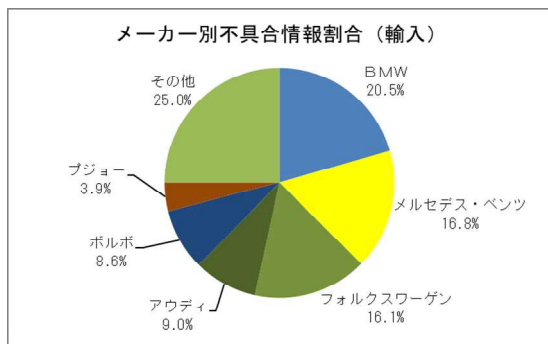
初度登録年別 装置別	~H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	不明	総計
原動機	53	18	25	16	28	32	76	104	100	131	69	51	49	53	62	2	38	907
動力伝達装置	30	22	28	27	24	49	71	75	83	76	38	13	23	27	19	1	22	628
制動装置	12	5	3	16	16	18	22	43	62	41	30	30	24	36	60	2	10	430
保安・灯火装置	8	2	3	3	6	13	28	34	37	57	51	46	18	17	25	3	15	366
車枠・車体	17	13	14	10	17	14	14	25	18	24	23	19	28	20	35	2	23	316
電気装置	4	2	3	1	4	8	27	33	43	18	12	11	7	11	18	2	16	220
かじ取り装置	10	5	2	3	17	26	35	22	13	15	9	4	6	5	10	0	8	190
排ガス・騒音	1	2	0	2	2	6	7	23	19	35	15	10	7	1	5	0	5	140
乗車装置	9	4	2	2	3	13	6	11	7	15	13	10	11	6	15	2	7	136
燃料装置	15	6	6	2	4	4	14	11	15	11	3	7	5	4	0	1	3	111
緩衝装置	4	0	1	3	3	3	2	6	10	8	5	2	2	3	6	0	0	58
走行装置	4	0	2	3	0	2	0	3	7	5	2	4	7	3	6	0	4	52
電動機	2	1	1	1	2	0	3	3	3	2	2	0	2	2	11	0	3	38
その他の装置	8	0	2	2	10	7	7	6	18	13	12	23	27	31	43	0	10	219
合計	177	80	92	91	136	195	312	399	435	451	284	230	216	219	315	15	164	3,811

8. メーカー別の不具合情報件数をみると、国産車メーカーでは日産自動車が653件(22.6%)と最も多く、次いでトヨタ自動車が476件(16.4%)、本田技研工業が383件(13.2%)の順となっている。また、輸入車メーカーではBMWが188件(20.5%)と最も多く、次いでメルセデス・ベンツが154件(16.8%)、フォルクスワーゲンが147件(16.1%)の順となっている。



順位	メーカー名	件数
1	日産自動車	653
2	トヨタ自動車	476
3	本田技研工業	383
4	SUBARU	301
5	スズキ	293
6	三菱自動車工業	253
	その他	536
	合計	2,895

順位	メーカー名	台数 (千)
4	日産自動車	8,796
1	トヨタ自動車	21,287
2	本田技研工業	11,509
6	SUBARU	3,028
3	スズキ	10,926
5	三菱自動車工業	3,087
	その他	18,644
	合計	77,278



順位	メーカー名	件数
1	BMW	188
2	メルセデス・ベンツ	154
3	フォルクスワーゲン	147
4	アウディ	82
5	ボルボ	79
6	プジョー	36
	その他	229
	合計	915

順位	メーカー名	台数 (千)
1	BMW	890
2	メルセデス・ベンツ	739
3	フォルクスワーゲン	675
4	アウディ	305
5	ボルボ	205
6	プジョー	95
	その他	1,661
	合計	4,571

注：メーカー別保有台数は、令和2年3月末現在における(一財)自動車検査登録情報協会及び(一社)全国軽自動車協会連合会の集計数字(小型特殊自動車及び原動機付自転車を除く。)より算出した。

※ メーカー別保有割合の順位は、不具合件数上位6社において順位付けしたもの。全社での保有台数上位6社を示したものではない。

(付録) 令和2年度ユーザー不具合情報における衝突被害軽減ブレーキおよびペダル踏み間違い急発進抑止装置の不作動状況に関する統計結果について

令和2年度にユーザーから国土交通省に寄せられた自動車の不具合情報のうち、衝突被害軽減ブレーキ及びペダル踏み間違い急発進抑止装置に関する不具合情報と思われるものを統計的にとりまとめたので、その結果を報告いたします。

なお、この統計結果はユーザーの申告による不具合情報を元にしており、国土交通省として不具合情報の内容について事実関係を保証しているものではありません。

1. 衝突被害軽減ブレーキ

令和2年度に衝突被害軽減ブレーキに関する不具合情報は81件あった。

(1) 被害別件数

(件)

被害 \ 事象	不作動	不要作動	その他	合計
物損事故	10	2	0	12
人身事故	0	1	0	1
事故なし又は不明	9	59	0	68
合計	19	62	0	81

(2) 車種別件数

(件)

車種 \ 事象	不作動	不要作動	その他	合計
乗用車	15	42	0	57
軽乗用車	3	18	0	21
貨物車	1	0	0	1
軽貨物車	0	2	0	2
合計	19	62	0	81

(3) 物損事故

(件)

車種 \ 事象	不作動	不要作動	その他	合計
乗用車	7	2	0	9
軽乗用車	2	0	0	2
貨物車	1	0	0	1
軽貨物車	0	0	0	0
合計	10	2	0	12

(4) 人身事故

(件)

車種 \ 事象	不作動	不要作動	その他	合計
乗用車	0	1	0	1
軽乗用車	0	0	0	0
貨物車	0	0	0	0
軽貨物車	0	0	0	0
合計	0	1	0	1

2. ペダル踏み間違い急発進抑止装置

令和2年度にペダル踏み間違い急発進抑止装置に関する不具合情報は7件あった。

(1) 被害別件数

(件)

被害 \ 事象	不作動	不要作動	その他	合計
物損事故	2	0	0	2
人身事故	0	0	0	0
事故なし又は不明	2	3	0	5
合計	4	3	0	7

(2) 車種別件数

(件)

車種 \ 事象	不作動	不要作動	その他	合計
乗用車	4	2	0	6
軽乗用車	0	1	0	1
貨物車	0	0	0	0
軽貨物車	0	0	0	0
合計	4	3	0	7

(3) 物損事故

(件)

車種 \ 事象	不作動	不要作動	その他	合計
乗用車	2	0	0	2
軽乗用車	0	0	0	0
貨物車	0	0	0	0
軽貨物車	0	0	0	0
合計	2	0	0	2

(4) 人身事故

人身事故に至った不具合情報はなかった。